

基幹産業が集積する「南部地区」

伊勢湾シーバース



【港内位置図】

名古屋港の原油受入基地

戦後の高度経済成長期になると、中部圏でも石油エネルギー需要が拡大し、これに対応するため名古屋港にも石油精製基地が建設されました。

それに伴い、大型タンカーの係留施設が必要になりましたが、石油精製基地の地先水面では水深が浅く、また防災上の観点からも問題があるため、沖合に大型タンカーを係留し原油を受け入れる施設「シーバース」を建設することになりました。

建設には十分な水深と船舶航行への影響を考慮して、名古屋港高潮防波堤から南約 10km の伊勢湾沖合が選ばれました。6年の歳月と 150 億円の総工費を費やし、昭和 50 年に完成しました。

南北 500m の巨大な洋上基地

石油基地には埋設のパイプラインを通して

シーバースとは、大型タンカーが安全に停泊、荷役できるよう沖合の海上に設置された荷役施設です。沖合に立地することにより、荷降ろし中の火災などの事故時に、臨海工業地帯や住宅地域にその影響を及ぼさないメリットがあります。

南北 500m の巨大な固定栈橋式洋上基地には、31 万重量トン級のタンカーが係留できます。原油は、海底下 3~3.4m に埋設された長さ 9.3km、直径 1.3m のパイプラインを通じて、南浜ふ頭に立地している石油基地に送られます。

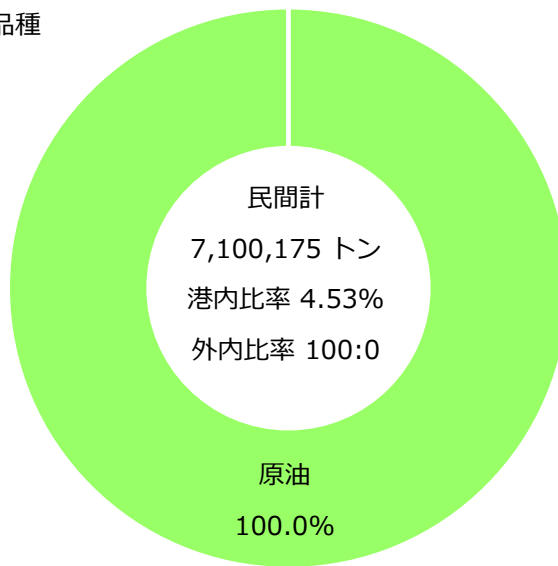
エリア基本データ

構造形式	固定栈橋式
大きさ	南北 500m, 東西 80m
水深	26m
バース水深	25.5m

民間計（伊勢湾シーバース）

係留隻数 36隻

取扱量と品種



●原油輸入 710万トン（品種別取扱港内比率 98.0%）

